インドネシアの華人系大学における中国語教育と大学生の意識

中矢礼美*　　劉国彬**

Chinese Language Education in Indonesian Chinese-affiliated Universities and Students' Consciousness

Ayami NAKAYA*　　Guobin Liu**

ABSTRACT

The purpose of this study is to research the characteristics of Chinese language education in Indonesian universities and the students' attitudes. With the introduction of the Indonesian policy of openness to Chinese culture in 2000, Chinese language and literature programs have been offered. Currently, more than 26 national and private universities offer these programs, with approximately 3,000 students enrolled. These programs offer an understanding of Chinese literature, Chinese language learning, and the acquisition of teaching methods, rather than identity development. Learning is focused on the acquisition of skills to increase the probability of getting hired. No prejudice against Chinese culture was observed, indicating a positive situation for ethnic harmony.

キーワード：華人系大学、華人、中国語教育、大学、インドネシア

1. はじめに　研究の背景・目的・方法

本研究は、インドネシアの大学における中国語教育の特徴と中国語を学ぶ大学生の意識を明らかにすることで、華人や華語の社会的位置づけの現状と展望の一端を明らかにすることを目的とする。

華僑・華人の人口は、19 世紀半ばから 1950 年代までに世界中に 4543 万人、東南アジアに 3349 万人、1980 年代以降の東南アジアへの新規移民数はおよそ 250 万人と言われている（宮原, 2013）。現在インドネシアの華人人口は推計 283 万人（人口比 1.2%, 2010）[1]であり、マレーシアの約 669 万人（人口比 20.5%, 2019）[2]、シンガポールの約 299 万人（人口比 74.2%, 2019）[3]に続いて東南アジアでは 3 番目に多い。

これまで東南アジア各国で展開されてきた華人・華語教育に関する研究の多くは、主に初等中等教育段階を対象として、国民統合やアイデンティティの視点から行われてきている。高等教育段階の研究では、マレーシアとシンガポールにおける華人系大学の教育の歴史と制度分析（竹熊, 1998；杉本, 1999; 杉村, 2000, 2015; 田村, 2012）が行われているが、インドネシアの華人系大学については、華人研究の中での事例として（倉沢, 2017）、華語教育の歴史の一部として（北村, 2014）研究されるにとど

*広島大学准教授　　**大学教育センター准教授

まっており、華人系大学や大学での華語教育の全体像を描いたものは管見の限りない。

そこで以下では、インドネシアの華人系大学の特徴を理解するために、まずマレーシアおよびシンガポール華語教育・華人大学の歴史的変遷を概観する。次いでインドネシアの大学における中国語教育カリキュラムの特徴を分析し、華人系大学であるブンダ・ムリア大学とアトマジャヤ大学を事例に、中国語を学習する学生にとっての華人系大学や中国語学習に対する意味をインタビューから理解する。

2. マレーシア、シンガポール、インドネシアにおける華語教育・華人系大学の変遷

(1) マレーシアにおける華人系大学の変遷

マレーシアは 1957 年独立後、「1961 年教育法」により華語小学校は存続したものの中学校は教授言語をマレー語か英語にするか、政府の補助を受けない私立の華文独立中学になるかを選択させられ、華語中学校は激減した（杉本: p. 25）。70 年代以降はブミプトラ政策によってマレー語が唯一の教授言語とされ、華人の大学進学者は少なく抑えられるようになった（王・洪, 2011: p. 193）。また、シンガポールの華人大学である南洋大学によるマレーシア学生の受け入れ拒否も重なり、華人は進学難の状況に置かれた（郭, 2011: p. 30）。そこで華人らは自らの大学設置を決意し、マレーシア華校教師会総会が準備を行った。しかし 1969 年の人種対立暴動事件により中断、その後も設立申請は拒否された。さらに「マハティール報告書」（1979 年）により教育のマレー語化政策（「3 M 制度」による華文小学校での華語の使用制限 [4]、最終統一試験言語のマレー語化、大学 1 年生の教授言語のマレー語化）がますます進み、華人は子弟を華文小学校と 6 年制の独立中学（董教総全国発展華文独中工作委員会が 1973 年に設立）に通わせることを望んだ（同: pp. 31-33）。こうして華文学校生徒数は 2 万 8 千人（1973 年）から 4 万 6 千人（1983 年）へと激増した（同: p. 32）。

このように、政府の華人教育抑圧に対抗することで初中等教育段階における華文教育は整備が進み、そこを卒業した後の華人の大学進学先の確保が必要となった。そして 1990 年代半ばの高等教育の多様化と民営化も相まって、華人大学が設立された。南方学院（1988 年）、新紀元学院（1997 年）、韓江国際学院（1999 年）である。杉村（2015）は、この 3 大学の設立の意味を次のようにまとめている。3 大学は、華語を教授用語とする華文教育の継続発展であり、長い政治的交渉の成果として華人コミュニティに大きな意味を持つ（杉村, 前掲書: pp. 88-89）。ただし、国家の高等教育制度が目指す多文化尊重、国民統合、人材育成と同じ教育的機能を持つ。さらに、経済的志向により、新紀元学院では 29 のうち 19 コースは英語を教授言語とするという国際化機能の意味も持つようになった（同: p. 92）。つまり、マレーシアの華人大学の特徴は、国家は華語を教授言語として容認し、華人大学は国家の教育目的を遂行するということで折り合いをつけ、さらに学生と大学の経済的期待により教授言語を英語化するという新たな機能が生まれているところにある。ただし、このような力のバランスは流動的で、杉村が指摘するように（同: p. 95）、8 割が非マレー人である私立大学のセグリゲーション化、国際化による英語化は、再び国民統合政策との間に課題を持ち、模索を続けることが予想される。

(2) シンガポールにおける華人大学の変遷

シンガポールでは、イギリスからの独立前年の 1955 年に内部自治を獲得後、各言語を平等に扱う多言語教育政策をとり、華文教育は重要視されていた（小林, 1982）。そして同年 1955 年には [5]、東南アジアの華僑・華人からの支援により、中国以外で初めての華語を主な教育言語とする南洋大学が設立された（田村, 2012）。設立の目的は、華人への高等教育機会の提供、華人学校教員養成、国家発展に向けた人材育成であった。ところがその後、シンガポール社会は欧米企業の誘致政策の下で英語化が進み、1975 年以降は中国語学科以外の教授言語が英語となり、華人大学の存在意義は薄らいでいった。そして 1980 年に南洋大学はシンガポール大学と合併しシンガポール国立大学となり、シンガポールの華人大学は統合という形で幕を閉じた（田村, 同上）。

その頃、政府は華文中学校生徒にも英語を教授言語とする学校に行かせることを推奨し、華文中学校の生徒数も大幅に減少していた（郭, 前掲書: p. 34）。1987 年には、政府は全学校において英語を第

一言語、各民族の言語を第二言語とする完全なバイリンガル教育体系を確立した。2003 年以降は華人小学校での英語学習は 1 年から始まり、算数と理科の教授用語は英語と華語が半分ずつ用いられた。つまり、国家は教育の英語化による国民統合と開発を進めたが、それは華人の社会的経済的成功を保証するものでもあり、各民族の言語もバイリンガル教育制度によって保障されたために、華人の母語教育欲求を抑えることにも成功した。そのため、華語による華人大学の必要性は大きくなく、南洋大学の終焉後も華人大学の出現はない。

（3）インドネシアにおける華人系大学[6]の変遷

インドネシアでは、1923 年時点で約 300 校の華人学校に、約 2 万 8 千人の児童・生徒が在籍しており、その教育には二つのパターン、すなわち、華僑・華人子弟らが中国語を習得するための華文教育と現地適応のための現地の主流教育内容を融合した統合型華僑教育があった（呉, 2010: 96）。日本軍政期が始まった 1942 年以降は、日本占領軍はオランダによる学校を閉鎖したが、華人小学校は条件付き（南京政府への忠誠、日本語教育、日本国歌を歌うなど）で存続を許したため（華人中学校は許可しなかった）、オランダの学校に通っていた華人子弟が移籍し、華人小学校の学生数は増加した（呉, 同上）。華人系大学は独立後に初めて設立され、1949 年にジャカルタ中華商会連合会によってインドネシア華僑公立高級商業学校（顧, 1992: p. 426）、1952 年にジャカルタ中華僑団総会によって華人学校の教師養成を目的とする師資講習班（2 年後に専門師範学校）が設立された（梁, 2013: pp. 11-12）。1954 年にジャカルタ連合中学校（後に巴城中学）が創設されたことで、華人学校数と児童生徒数はさらに増加し、中国語教師の養成の必要性が高まっていたと考えられる。1957 年の政府統計によると 1669 校、児童・生徒数は約 45 万人に上っている（梁, 前掲書: p. 12）。

しかし政府はその頃から国家統合を進めるために華僑・華人でインドネシア国籍を取得した者には同化を強く勧めるようになり、彼らの華人学校への就学を認めないようになった（梁, 前掲書: pp. 11-12）。さらに 1957 年には中国国民党寄りの華人学校を閉鎖し、1958 年には台湾当局がインドネシアのある地域の反政府勢力を支持したことを理由に、約 200 の華人学校を「親台北」とみて、閉鎖した（梁, 前掲書: p. 12）。その中で上述したインドネシア華僑公立高級商業学校と師資講習班（専門師範学校）も閉校となり、華人教育は厳しく統制されていった。

ただし、その後もいくつかの大学が華人によって設立されている。バペルキ大学（1958年設立、1962年にレス・プブリカ大学へ改名）、タルマナガラ大学（1959年）、アトマジャヤ・インドネシア・カトリック大学（1960年）、クリスティアン・ペトラ大学（1961年）、マラナタ大学（1965年）である。これらの大学は全てインドネシア語を教授言語とし、教育省の規定に沿ってカリキュラムを編成していた。ただし、バペルキ大学は、他の大学と異なり中国籍で中国語学校を卒業した学生を特別に受け入れており、エスニック色が強かった（倉沢, 2017: p. 93）。その後、レス・プブリカと改名した同大学は、共産党を排除した軍事クーデターである「9・30事件」（1965年）の直後に、国軍を主体とした「共産主義撲滅」運動により焼き討ちにあい、廃校となった[7]。廃校後には、同大学の大学生の教育を保証すべくトリサクティ大学が政府によって設立され、大学経営の正常化を待って1年後にトリサクティ財団に経営主体が替わった[8]。しかしそれ以外の大学は閉校されなかった。それらは、宗教系（キリスト教）の大学で、学生も華人に限定せず、華語教育も行わず、華人学校の教員養成を目的としない、同化主義的な大学運営を行うことで国家とのコンフリクトを回避できたのではないかと考える。

この「9月30日事件」以降、スハルト政権による華人政策は同化への圧力をさらに強め、「言語、教育、文化などにおける中国的要素を排除することが強く求められ」「華人系学校は相次いで閉校され、華語も使用禁止となった」（青木, 2006: p. 402）。そのため、中等教育段階の教員養成、通訳・翻訳の人材養成を目的として、スラバヤ華光劇社とスラバヤ華僑社団連合会文教部が共同で1962年に設立していたスラバヤ華僑師範専科学校も閉校となった（呉, 2000: p. 65）。学校閉校直前1966年時点でのインドネシアにおける華人学校は629校、児童生徒数は27万2782人、教員6478人であった（Coppel, 1994: p. 135）。

80 年代に入ってからの高等教育は、爆発的な量的拡大を経験した時期であり、高等教育就学率と学

生数は、1979 年は 2.328%（75 万 4497 人）から 1989 年には 7.93%（156 万 8450 人）と 10 年間で飛躍的に増えた [9]。この時期に設立された華人系大学はビナ・ヌサンタラ大学である（1981 年）。続いて 90 年代に入ると、中国との国交正常化により、中国との関係回復が徐々に進み始めた。その頃、チプトラ大学（1990 年）、プリタハラパン大学（1993 年）、ブディダルマ大学（1995 年）が華人によって次々と設立されている。国策大綱（Garis-Garis Besar Haluan Negara, 1993-1998）では、労働市場のニーズや社会の発展に適した人材育成を目指す「リンク・アンド・マッチ」政策が掲げられ（中矢, 2002）、華人系大学も財力とネットワークによる設立が可能であった。ただし、これらの大学も中国語教育を行うことはなかった。

そして大きな転換期が 1998 年スハルト体制崩壊によって訪れた。2000 年以降は華人文化の開放政策が始まり、2010 年以降は中国経済の好調により華語教育熱も高まり、華語学習が初中等教育機関、高等教育機関でも実施され、華語・漢語の学習者は非華人にも広まった。この時期、ブンダ・ムリア大学（2003 年）をはじめ他 5 大学が華人によって設立された。しかしこれらの多くの華人系大学は突如設立されたわけでなく、創設初期はコンピューターなどの専門学校であったものが、徐々に規模を拡大し大学となったようである。

現在はインドネシアには 581 の大学が存在し [10]、その中で華人系大学は 14 校程度ではないかと推測する（表 1）。華人系大学であるとの判断は、先行研究（倉沢, 2017）、華人系新聞 [11]、中国語・中国文学学科の大学教員からの情報 [12]、各大学 HP による確認による。

表 1　インドネシアにおける華人系大学と中国文学・中国語学科の概要

大学名	ランキン	州	設立年	設立者	学生数	宗教背景	学科名	学科開設年	評価	中国文学・中国語学科学生数
トリサクティ	61	ジャカルタ	1958/1965	1958年華人団体国籍協商会（バペルキ大学）⇒1962年改名レス・プブリカ大学⇒1965年：政府立⇒1966年トリサクティ財団立	21,613					
タルマナガラ	89	ジャカルタ	1959	Drs. Kwee Hwat Djien	13,176					
ビナ・ヌサンタラ	23	ジャカルタ	1981	Theresia Widia Soerjaningsih, Joseph Wibowo Hadipoespito	42,306		中国文学	2003	A	305
ブンダ・ムリア	340	ジャカルタ	2003	Djoko Susanto	3,500		中国語	2008	A	324
プンバングナン・ジャヤ	322	ジャカルタ	2011	Ir. Ciputra (Jaya Gruoup)	504					
プレジデント	199	西ジャワ	2004	Setyono Djuandi Darmono, Donald Watt	3,892					
プリタ・ハラパン	185	バンテン	1993	James Riady, Johannes Oentoro	8,025	キリスト教				
ブディ・ダルマ	809	バンテン	1995	Boen Tek Bio Religious community	3,443	仏教				
スルヤ	351	バンテン	2013	Yohanes Surya	1,134					
アトマ・ジャヤ	36	ジョグジャカルタ	1960	Yayasan Atma Jaya (Ir. J.P. Cho and Co)	13,571	キリスト教	中国語・非学位	2000	—	2
クリスティアン・マラナタ	183	西ジャワ	1965	Dr. J.E.Siregar	8261	キリスト教	中国語D3	2001	B	26
クリスティアン・ペトラ	44	東ジャワ	1961	drg. Tan Tjiaw Yong, Gouw Loe Liong, drg. Tan Gie Djien, Tjoa Siok Tjoen, Lie Ping Lioe and Kwee Djien Kian	8,486	キリスト教	○	2001	B	80
チプトラ	278	東ジャワ	1990	Ir. Ciputra (Tjie Tjien Hoan)	3,818					
マーチュン	312	東ジャワ	2007	Adi Tjitro and co	1,558		中国語教育	2015	C	57

（出典）大学ランキングは、Ranking Web of University（https://www.webometrics.info/en/asia/indonesia%20、最終閲覧日 2020 年 12 月 14 日）、大学の概要は Pangkalan Data Pendidikan Tinggi（https://pddikti.kemdikbud.go.id/data、最終閲覧日 2020 年 12 月 14 日）、大学の設立者および宗教背景については各大学の HP より中矢作成。

これらの大学はすべてジャワ島内に所在しており、学生数の規模は様々であるが、評価およびランキングは概ね上位である。宗教的背景のある大学はキリスト教系が 4 校、仏教系が 1 校である。そのうち中国文学・中国語学科を有する大学は 4 校、ディプロマ 3 年課程を有する大学は 1 校、非学位課程を有する大学は 1 校である。それらの大学の中国文学・中国語学科の設立年は、華人文化の解放が始まった 2000 年以降であり、2000 年創設が 1 校、2001 年が 2 校、2003 年が 1 校であり、すぐに対応したことが分かる。その一方で、8 つの大学が中国文学・中国文学学科を開設していない。

このうち筆者らが調査した 4 つの華人系大学では、それぞれ異なるパターン（華人的価値志向、グ

ローバル人材育成志向、中国語教育牽引志向、人格形成志向）を見せ、中国文学・中国語学科では華人学生の割合は大きいが、すべての民族に開かれ、インドネシア語を教授言語とし、国民統合や国家開発を支える人材育成を目指す、同化志向型の多文化主義的な特徴を示していた[13]。インドネシアの華人系大学は、シンガポールやマレーシアのように初等教育から華語教育を受けてきた人々の受け皿である必要性もなく、政治的に華語使用が一切許されない状況の中で、唯一存在できる華人系大学の在り方であったし、現在も国家統合・開発に細心の注意を払っている形態といえよう。

3. インドネシアにおける中国語教育および大学における中国語教育の特徴

(1) 中国語教育の現状

このように、インドネシアでは 1966 年からの華人文化開放までの 30 年以上の間、華語や華人文化が封鎖され、「華人文化に関する集合的記憶を持たない『ロストジェネレーション』が生み出された」（北村, 2014: p. 62）が、現在の大学生が生まれた頃には、ワヒド大統領期に華人文化の禁止の撤廃が進められ（1999 年）、それに中国経済の好調が後押しし、中国語学習への関心が高まった。

漢語教育の実態として、大塚（2015）はその形態として、「①家庭教師による指導、②補習班や補習学校、③正規の幼稚園・小中高校、④大学」を上げている。そして、インドネシアで広まっている漢語教育は「華人の民族言語の教育として華語教育ではなく、あくまで外国語としての中国語を公教育のカリキュラムに取り組んでいくもの」であるとしている。③の正規の教育としては、中国語は他の外国語と同様に、初等・中等学校の第二外国語として教えられている。

高等学校における中国語学習者については、大塚（2015）は地方都市（サラティガおよびスラバヤ）での 5 つの高校学校における 843 人の漢語学習者（65.9%が華人）への調査を通して、その特徴を明らかにしている。彼らの学習動機は、「将来役に立つ」「国際言語だから」が高く、現実主義的であることが示されている（大塚, 前掲書: p. 61）。また、華人の血統を引く者の方が「親の勧め」が学習の要因であることが比較的多いことから親世代の漢語へのこだわりが理解できること、華人の血統を引かない生徒の方が漢語に対して元々興味・関心を抱いていたことを示していることから「華人の血統を引く者のみならず、広くインドネシア人児童・生徒の間に漢語ないし中国語学習熱が高まる兆しを見ることができる」としている（同: pp. 61-62）。その他、高等学校の中国語学習者の学習動機を調査したものとして、西ジャワ州内の高等学校における漢語学習者 534 人に対して行ったものがある（Domos, 2018）。その結果でも「将来役に立つ」という理由が高いこと、華人の方が親の勧めが強いこと、非華人も中国語に対する興味関心が強いことなど、大塚（2015）と同じ結果が出ている。

北村（2014: pp. 79-80）によると、政府による中国語教育の管轄は国民教育省の学校外教育総局が担い、公教育以外の語学教室の支援、中国政府による中国語能力認定試験（HSK）の 2002 年からの導入、普通高校と専門学校における外国語教育の支援をしている[14]。そして、実際の活動支援は、インドネシア大学の中国語教師教会（Associate Guru Bahasa Mandarin）と華人が中心となっている中国語教育調整会（Badan Koodinasi Pendidikan Bahasa Mandarin）が担っている（北村，2014: p. 80）。

(2) 大学における中国語教育学科と学習者数

大学レベルでは、中国文学・中国語学科を持つ大学が Asosiasi Program Studi Mandarin Indonesia（APSMI：インドネシア中国語学科のある大学協会）を 2015 年に立ち上げ、現在 26 の大学が加盟している[15]。加盟大学は、国立大学では、インドネシア大学、ヴラウィジャヤ大学、スラバヤ国立大学、北スマトラ大学、ジャカルタ国立大学、マラン国立大学、スマラン国立大学、タンジュンプラ国立大学。私立大学では、インドネシア・アル・アザル大学、ダルマ・プルサダ大学、インドネシア・クリスティアン大学、ユニバーサル大学、ウィドヤ・カルティカ・スラバヤ大学。私立大学でも華人系大学は、表 1 にすでに挙げているビナ・ヌサンタラ大学、ブンダ・ムリア大学、クリスチャン・ペトラ大学、マーチュン大学。それに加えて、アジア国際友好メダン外国語学院が挙げられている[16]。ディ

プロマ 3 年の中国語学科を有する大学は、国立大学ではパジャジャラン大学、ガジャマダ大学、私立大学ではバンドン国際 ABA、スディルマン・ジュンデラル大学、スブラス・マレット大学、ハラパン・ブルサマ大学、華人系大学はマラナタ・クリスティアン大学である。

ただし、中国文学・中国語学科を有するすべての大学が APSMI に加盟しているわけではないようで、外国語センターの中に非学位学科として中国語学科を有する華人系大学であるアトマジャヤ大学は含まれていなかった。また、「中国文学・中国語が学べる大学」で検索したところ、ハサヌディン大学やマカッサル国立大学でも中国文学・中国語学科があることが分かった。それらの大学について、国立大学と私立大学に分け、それぞれの大学のランキング、所在地（州）、学科名、学科評価、学科開設年、学科在籍者数を表 2 にまとめた。

表 2　中国文学・中国語学科等を有する国立/私立大学　＊表１の華人系大学を除く

	大学名	ランキング	州	プログラム名	中国語プログラム評価	プログラム開設年	中国語・中国文学プログラム学生数
国立	ガジャマダ大学	1	西ジャワ	ディプロマ３	C	2003	16
	インドネシア大学	2	ジャカルタ	中国文学	A	1996	204
	スブラスマレット大学	5	中部ジャワ	ディプロマ３	B	2004	158
	ヴラウィジャヤ大学	6	東ジャワ	中国文学	A	2014	255
	北スマトラ大学	8	北スマトラ	中国文学	A	2006	178
	ハサヌディン大学	17	南スラウェシ	中国語と中国文化	—	2018	40
	マラン国立大学	23	東ジャワ	中国語	B	2012	223
	スマラン国立大学	26	中部ジャワ	中国語	B	2012	132
	スラバヤ国立大学	40	東ジャワ	中国文学	B	2011	306
	マッカサル国立大学	41	南スラウェシ	中国語教育学	—	2015	100
	ジャカルタ国立大学	57	ジャカルタ	中国語	B	2013	134
私立	ジュンデラル・スディルマン大学	21	中部ジャワ	ディプロマ３	A	2004	122
	ダルマプルサダ大学	73	ジャカルタ	中国語と中国文化	B	2013	116
	タンジュンプラ国立大学	113	西カリマンタン	中国語	B	2009	174
	インドネシア・クリスティアン大学	363	ジャカルタ	中国語教育	B	2004	12
	ユニバーサル大学	799	リアウ	中国語教育	C	2014	212
	アジア国際友好メダン外国語学院	—	北スマトラ	中国語	—	2004	—
	インドネシア・アル・アズハル大学	—	ジャカルタ	中国語と中国	B	2004	113
	ハラパン・ブルサマ単科大学	—	西カリマンタン	中国語	C	2015	294
						合計	2789

（出典）大学ランキングは、Ranking Web of University https://www.webometrics.info/en/asia/indonesia%20）、大学の概要は Pangkalan Data Pendidikan Tinggi（高等教育データサーチエンジン）（PDDikti（https://pddikti.kemdikbud.go.id/data、最終閲覧日 2020 年 12 月 21 日）より中矢作成。

この表からは、国内ランキングの高い国立大学は中国文学を中心に、以前各州にあった教員養成大学で現在総合大学となった国立大学は中国語を中心に学科を開設していることが分かる。私立大学では中国語あるいは中国語教育学科が開設されている。中国文学・中国語学科を開設する大学数は華人系大学も含めると私立大学で 14 校と国立大学 11 校より若干多く、学生数も若干多い（私立 1837 人、国立 1647 人）。所在地はジャワ島以外では 7 校であり、多くがジャワ島内（18 校）であることが分かる。学科の評価は国立大学の方が評価は高い傾向が見られる。学科開設年をみると、インドネシア大学以外の大学では華人文化開放政策後の 2003 年が最も早く、開設されたものの正式に認定されるのに 4 年程度かかっているケースが多く、ほとんどが 2010 年前後以降に本格的に始まったといえよう。ハサヌディン大学やマカッサル国立大学は設立後間もないため､評価もまだ受けていない状況にある。学生数は、大学・単科大学において中国語の学習数は、華人系大学における中国語学習者数は 523 名

で、それ以外の大学では 2789 名である（2019 年度）。在籍数は国立・私立には関係がないようである。

（3）大学の中国語教育カリキュラムの特徴

インドネシアにおける高等教育の目的は、国家の統合と開発に資する愛国心に満ちた国民形成であり、そのために私立国立問わず、全大学において必須科目（パンチャシラ教育、インドネシア語、宗教教育、サービス・ラーニング）が設定されている。それは人格形成科目（Mata Kuliaha Pengenbangan Kepribadian:MPK）と呼ばれるものである。各大学は、これに加えて学問・職業科目（Mata Kuliah Keilmuan dan Keterampilan:MKK）、職業専門能力科目（Mata kuliah Keahilian Berkarya）、社会規範科目（Mata Kuliah Berkehidupan Bersama: MBB）のカテゴリーでカリキュラムを構成している。これらの科目群名は、専門分野に合わせて違う表現で示されることがあり、教員養成を目的とする学科では、一般科目（Mata Kuliah Umum）、教育学基礎科目（Mata Kuliah Dasar Kependidikan）、専門近隣分野科目（Mata Kuliah Bidang Keahilan dan Penunjang）、実習科目（Mata Kuliah Pembelajaran）などのように表現される。

全ての大学の HP において公開されているカリキュラムを検索したところ、中国文学学科と中国語あるいは中国語教育学科ではカリキュラムの特徴が異なるため、以下、二つの学科の特徴を見ることとする。

中国文学学科の事例としてインドネシア大学を例にあげると、以下のようなカリキュラムが示されている[17]。

1. 一般科目（21 単位）：総合 A（6)、総合 B（6）、芸術・体育（1)、宗教（2)、インドネシアの人々と社会（3)、インドネシア文化（3）
2. 専門基礎・近隣分野科目（77 単位）：古代中国史（3)、中国明朝時代（3)、中国統一概論（3)、現代中国概論（3)、中国文化概論（3)、中国語言語学概論（3)、中国語Ⅰ−Ⅵ（24)、中国語音声学・音韻論（3)、インドネシア語中国語翻訳（3)、古代中国語Ⅰ−Ⅱ（3)、中国語意味論（3)、中国思想基礎（3)、中国文学の発展（3)、中国語の史学（3)、中国文化総論 A・B（6)、中国語テキスト分析 A・B（6)、文化研究基礎理論と方法（3)、近代哲学思想概論（3)、学術的インドネシア語（3）
3. 実習科目（選択 13 科目）：サービス・ラーニング

他の大学の中国文学学科のカリキュラム内容も、多くが同じような傾向を示している。

次に中国語学科の事例としてジャカルタ国立大学を例にあげると、以下のようなカリキュラムが示されている。カリキュラムから、主には中国語教員養成に力を入れているが、中国人を対象とする旅行会社を中心に一般就職後に必要なスキルを習得させることも目的としていることが分かる。

1. 一般科目（13 単位）：宗教（3)、パンチャシラ（2)、公民（2)、インドネシア語（2)、英語（2)、自然科学基礎論（2）
2. 教育学基礎科目（12 単位）：教育原理、学習者の発達、学習理論と学習、教育制度
3. 専門近隣分野科目（必修 93 単位、選択 6−10 単位）：聴解Ⅰ−Ⅳ（8)、会話Ⅰ−Ⅳ（8)、読解Ⅰ−Ⅳ(8)、筆記Ⅰ−Ⅳ（8)、文法Ⅰ−Ⅳ（8)、上級読み書きⅠ−Ⅱ（8)、中国語オーディオビジュアル(2)、中国史概論（2)、中国文学・文献概論（2)、クロスカルチュラル概論（2)、中国語音韻　論・形態論概論（2)、中国語意味論・語用論（2)、中国語インドネシア語翻訳Ⅰ−Ⅱ（4)、中国語教育テクノロジー概論（3)、研究方法論（2)、統計（2)、哲学（2)、サービス・ラーニング（4)、起業家理論（2)、起業家実践（2)、言語美学と芸術（2)、卒業論文事前セミナーと計画作成（2)、卒業論文（4）

   選択科目Ⅰ（卒業論文の代替）：論文の書き方（2)、言語学研究（2)、言語と言語教育セミナー(2)、文化研究（2）

   選択科目Ⅱ（専門）：ビジネス中国語（2)、観光中国語（2)、ジャーナル中国語（2)、外国人のためのインドネシア語（2)、中国文化（2）

4. 実習科目（20 単位）：教授コンピテンシー実践（1）、マイクロ・ティーチング（2）、外国語としての中国語教育方法論（4）、中国語教育計画と教材開発（4）、カリキュラムの意味と教科書（2）、中国語学習評価（4）、中国語の間違い分析（2）

他の国立大学もほとんど同じカリキュラム内容となっており、異なるのは、中国史概論が 3 単位（マカッサル国立大学）、演劇 2 単位（タンジュンプラ大学）などの程度である。ただし、アジア国際友好メダン外国語学院は就職に有利な専門性の育成を重視しており、広告学概論、国際貿易、幼児教育計画、幼児言語教育、旅行会社経営、観光景観描写、秘書のための中国語など特色ある科目が多い。

インドネシアでは、多くの初等中等学校で中国語教育が急に教えられるようになったこともあり、教員数が足りない状況にあるため、中国語教育学科の需要は高いと考えられる。孔子学院が中国語講師の派遣も行っているが、高い給与をインドネシア側が準備することは難しく、また初級の中国語をインドネシア語が分からない中国側の講師が教えることにも障壁があるのではないだろうか。そのため国内で中国語教員の養成が望まれている。ただし、中国語教育の学科を卒業しても教員になるとは限らず、経済的な理由により中国企業関連を希望する学生も多いのも事実であり、今後の課題といえよう。また中国経済の好調により、中国企業関連で働ける人材が増えることはインドネシア経済にとっても、個人にとっても経済的メリットが大きく、ビジネス中国語の習得は需要が高い。そのため、中国語学科のカリキュラムの方が中国文学よりも実用性が高いため、中国文学学科よりも中国語学科が多いのではないだろうか。

インドネシアの大学で中国語学科やカリキュラムに関する研究も少しずつ行われるようになってきているが、その内容は中国語試験と大学の中国語カリキュラムの適切性について言語教育学的に分析しているもの（Budianto.P.& Laurencia.N. , 2014）がほとんどである。また大学の中国語学科の教員によって中学校の中国語カリキュラム研究も進められているが、これもカリキュラムはシラバスについての教授学的な研究となっている。教育文化省が中国語カリキュラムのスタンダードを示していないため、各中学校の中国語教師が集まり、カリキュラムを作成し、教材を探すという状況において、教員の使用感から適切な教科書を選定するという研究（Afdilla, D. L., Irwati, R.P., Anggraeni, 2018）、様々な教授方法の効果に関する検討（Mintowati, M., 2017）などは、実践者に役立つ研究である。高校段階での中国語教育についての研究では（Utandi, S., Limuria, R., 2019）、未だにほとんどの学校が海外の中国語教科書を使っており、インドネシアの学習者の学習環境や文化状況に不適切である点を指摘し、以前インドネシアの出版社が発行した中国語教科書の改善を求めている。このような研究の蓄積は、今後多くの中国語教科書開発に結び付くだろう。しかし、これらの研究では華人アイデンティティや中国、華人、インドネシアの国家間についての意識の変化について教育社会学的な視点から行われているものはない。

4. 華人系大学における中国語教育学科の特徴と受講大学生の意識　—2 大学の事例より—

本稿では、学生へのインタビューが許されたブンダ・ムリア大学[18]とアトマ・ジャヤ大学[19]を事例として、学生へのインタビューから彼らの中国語学習背景や動機、華人アイデンティティとの関係について探ることとする。

(1) ブンダ・ムリア大学：中国語教育牽引志向型大学

1）大学の概要

ブンダ・ムリア大学はジャカルタに 2003 年に設立され、17 学科に 3500 人が在籍し、中国語学科には 324 名が在籍している。大学のビジョンは質の高い教育と国内産業発展に貢献する大学、ミッションは各専門分野での高いコンピテンシーと競争力の育成と国家発展に資する研究活動を行うことである。中国文学学科の目的は、広い見地からの中国語・文化・華人ビジネスの理解、中国語通訳・翻訳

能力、国際的に働くための専門性・態度・礼節を教えることである。教育の特徴の一つは、中国語教育カリキュラム開発クラスであり、国内の中国語教育を牽引する教員養成を目指している。その他、華語教育コーディネイト機関や華語教師団体と華語教育者トレーニングも実施している。中国・孔子学院や台湾との関係は、設立時に北京文化センターから講師派遣や助言があり、現在は学科の約 20%が中国から留学奨学金を得ている。

学科長によると、大学に在籍する学生の民族は多様だが、中国文学学科ではほとんどが華人だろうということであった。卒業後は、他学科の学生より高給の企業に就職できる。教員は 11 人で、台湾から 3 名、中国・孔子学院から 3 名の講師が含まれる。

2）中国語教育学科の大学生の意識

学生へのインタビュー調査では、①中国語を勉強している理由、②大学を選んだ理由、③何を学んでいるか、④将来何になりたいかを中心的に聞いた（下線は分析に用いた部分）。

A 君：2 年生。男子学生。祖父は中国から移住してきたが、既に亡くなり、出身地も知らない。父親はジャカルタ、お母さんはメダン人だが、どちらも華人の子孫です。

①この大学を選んだ理由は、両親から中国語は将来就職で役に立つから勉強した方がよいと勧められたから。家では福建語とインドネシア語を混ぜて使っている。リスニングが弱く、よく反対に効き間違える。読む方が楽。

②この大学は中国文学で有名だから選んだ。

（なぜインドネシア大学ではなくてここを？）

いやいやとんでもなく高いからそれは無理！ここは授業料も入りやすい金額だから。

③一日、2,3 コマ。選択科目はあまりなく、ほとんど決められたとおり。

④通訳、ツアーガイド、商売関係。3 年生になったら、ビジネス専攻に入りたい。職業体験では、通訳アシスタントとかあればやりたい。

B 君：2 年生。男子学生。華人の子孫。家では中国語を使うので、コミュニケーションはまあまあできるが、読むことはできない。

①中国語は面白いから。インドネシアは今、工業分野で中国語が必要とされている。多くの工学技術関係は中国から来ている。日本の技術も使われているが、数年以内にすべて中国に取って代わられるといわれている。これからは中国の時代だから中国語を勉強した方が将来、仕事を得やすい。

②中国語を学ぶにはとても有名な大学だから。

③2, 3 コマ

④教育者になりたい。高校の中国語先生。大人のレベルがいい。小学生は無理。

C 君：3 年生。男子学生。両親共に華人。地域としてはカリマンタンとジャワの華人。家では客家語という地方語で話している。アイデンティティカードの宗教は両親の宗教で仏教だが、自分はキリスト教徒。まだ記載変更していない。中国語ビジネスを専攻している。

①中国語は、自分が小さい頃からドラマを見ていて、面白そうだと思っていた。それで勉強を続けたいと思っていた。両親からの勧めは全くなかった。

②従兄弟が、ブンダ・ムリア大学はとても中国語文学で有名であるし、支援がしっかりしていて、進路指導もちゃんとしてくれるからいいと強く勧めてくれたから。

③平均 2 コマ

④通訳の仕事がしたい。話すことがすき。教えるアルバイトも先月はじめたところだけど、とても難しい。

D 君：3 年生。男子学生。両親ともに華人。出身地域はビトンとジャワ。家ではインドネシア語を通常使っている。仏教徒。中国ビジネス専攻。

①中国語に関心があったこと、就職に有利であること、中国語ができると給料が良いことが理由。
②この大学は有名だから。インドネシア大学でも中国語を教えているが。この大学の方がよい。
③平均 2 コマ
④ビジネス分野の通訳者になりたい。

E さん : 4 年生。女子学生。パレンバン出身であるが、祖父は中国人。祖父母に中国語は教えてもらってきた。

①もともと中国語を学びたいという強い気持ちがあった。祖父母、両親、友人からの強い勧めもあり、また就職を考えても有利であるため。

②祖母が UBM の行事で中国の歌を披露する経験があり、学内のことも見ていてよく分かっており、大学のいい雰囲気を教えてくれた。また、大学の中国語教育のよさも理解していて、強く勧められた。また、奨学金を取れたことも大きな要因。通常は 700 万ルピア（約 6 万円）の学費であるが、私の場合は面接での話がよかったため、40%の奨学金を得ることができた。そのため、1 セメスターの学費は 250 万ルピア（約 2 万円）のみとなり、両親にとっても大きな援助となっている。ただし、条件があり、成績の平均は、（GPA）2.75 以上でないといけない。これを下回ったら、すぐに奨学金は取り消される。奨学金をとるためには他にも方法があり、兄弟でこの大学に入っていたら、奨学金を得ることができる。

この大学は、授業料はすごく安いけれど、よいことが沢山ある。まず、中国や台湾からの先生が多い。これらの先生はとても若くて、たぶん 4 歳くらいしか違わないので、親しみやすく、中国語しか分からないので、こちらも語彙数が増える。そのため、学外でもご飯を食べに行ったり、困ったことがあったら助けたりして、お互いに助け合ってよい関係ができている。他にも、とても有名な卒業生がやってきて、中国語とビジネスや仕事の関係について話をしてくれたり、沢山の企業がやってきて私たちの中国語を試して、実力が高いと思う人は直接雇うという方法をとっている。

③卒業論文のトピックは、「教授法」。授業は平均 2 コマ。
④中国語を教えられるところであれば、どこでもいい。

F さん : 4 年生。女子学生。両親ともに華人。家では中国語を話している。

②高校生の時に UBM の主催する文化コンテストで中国語の歌で 1 位を受賞し、100%の奨学金を得ることができて、この大学を選んだ。
③平均 2 コマ。卒業論文は「中国文化」。
④通訳者になりたいが、試験があるので、難しいと思う。

G 君 : 男子学生。1 年生。両親は華人。

①将来はいい仕事に就職したい。そのためには、中国語が絶対に必要だと思う。
②大学は家に近いし、また、中国語教育は優れたことを聞いたから選んだ。親にも勧められた。この大学には中国からの先生がいるし、月曜日から金曜日まで、ずっと中国語の授業があり、ともて楽しい。この学校に選んで良かったと思う。
④将来はインドネシアで働きたい。海外で働くことは考えていない。

H 君 : 男子学生。1 年生。両親は華人。

①高校で中国語を一年間勉強したことがある。親は華人で、家では福建語で話す、将来はインドネシアの中国系の企業で働きたい。今の勉強はとても楽しい。

I さん : 女子学生。1 年生。両親は中国の福州からきて、今電気製品の店を経営している。店は、両親とインドネシア人の運転手を雇って、荷物運びなどの仕事を任せている。今父はインドネシアの国籍を取得し、母親はまだ中国国籍のまま。自分も中国の国籍。家では、福州方言を話しているが、学校はインドネシア語で授業を受けている。8 歳の時にインドネシアに親と一緒に来て、それに高校の時から、中国語を勉強したことがある、今、簡単な会話は中国語で問題なく話せる。

②この大学に選んだ理由は、家に近いから。もう 1 つ選んだ理由としては、大学の成績がよかったので、入学料は半分免除してくれた。

③8 月 13 日に大学が授業開始後、一ヶ月ぐらい、各授業のはじめごろ漢字の発音を勉強して、今会話と文法を勉強している。大学に入って、満足している。先生の教え方は上手だし、台湾人や、中国人、インドネシア人の先生がいる。大学の環境も気に入っている。

④中国語を選んだ理由について、自分は将来中国語とインドネシア語の通訳になりたいから。なぜなら、現在は中国語が理解できると、より良い仕事に就職できるから。ただし、インドネシアを離れることは考えていない。8 歳の時にインドネシアにきて、ここで小学校から高校までの友達が多いし、生活に慣れてきたので、離れたくない。高校までに、自分の周りに中国語を勉強している友達は少なかった。将来はわからないが、留学するかもしれない。

J さん：女子学生。1 年生。祖父母の世代がインドネシアに移住し、両親は中国語を話せない。親は服装の店を経営している。家では、インドネシア語を話すので、今中国語をほとんど話せない。（通訳は I さん）

①両親は自分が話せないから、自分の子どもには中国語を勉強して欲しかったんだと思う。

②この大学を選んだきっかけは親の勧めだから。家に近いし、大学入学の成績は良かったので、授業料の半分を免除してくれた。

中国語を専攻した理由は将来仕事に有利だから。将来中国に留学するかどうかまだわからない。

以上 10 人の学生はすべてが華人であるが、家庭で使用する言語の状況は、インドネシア語のみ（D 君、J さん）、中国語方言とインドネシア語を混ぜて（A 君、G 君）、主に中国語方言（B 君、C 君、E さん、F さん、H 君、I さん）という状況である。主に中国語方言を使用しているといってもレベルや話す相手や話す場所は様々で、B 君は「まあまあ」、E さんは祖父母から教わった。両親はロストジェネレーションと言われているものの、家で中国語方言を使う人が多いことが分かる。しかし、それらは地方語であるため、大学で学ぶ標準中国語学習はプリブミ（土着住民）よりは有利とはいえ、やはり難しいのではないかと思われるが、楽しんで勉強しているようである（G 君、H 君）。彼らの中国語学習意欲は、多くが就職や高い給料に有利だからというものであり、就職に関係のない動機に、「ドラマを見ていて、面白そうだった」から（C 君）という理由もあった。その中でも親の勧めに言及した学生は 3 人おり（A 君、G 君、J さん）、「自分が話せないから、自分の子どもには中国語を勉強して欲しかったんだと思う」という話もされた（J さん）。親の勧めというよりは、奨学金で親を助けたいという学生も多く（E さん、F さん、I さん、J さん）、家庭の中国語使用状況が奨学金の取りやすさに結び付き、将来の就職にも有利であるといった複数の条件が動機に結び付いているようである。華人アイデンティティとしては E さんのように祖母が中国文化に精通しているような場合にのみ伝わってきた。8 歳からインドネシアに来たという I さんは、インドネシアに慣れ、多くの友人ができて「離れたくない」という発言もあり、民族的なアイデンティティよりも生活の慣れや現在の友人関係の方が個人的アイデンティティに大きな影響を与えていることが分かる。

(2) アトマジャヤ大学：ナショナルアイデンティティ型大学

1）大学の概要

アトマジャヤ大学は、1965 年、ジョグジャカルタに設立され、23 学科に 13571 人が在籍する。中国語の学科はなく、外国語センターに非学位課程の中国語学科が設置されており、現在の学生は 2 人である。大学の HP によると、現在の大学のミッションは、キリスト教信仰、知識科学技術、インドネシア文化を統合する優れた研究と人格教育を行うことである。アトマジャヤ大学は、インドネシアナショナリズムが強い華人らによって設立され、中国・台湾との関係もなく、同化志向が強いナショナルアイデンティティ型大学といえる[20]。

外国語センター中国語学科は、2000 年に入って経済的ニーズに応じて開かれた。中国語学科は学位課程ではないが、最も多かった時期には 30 数名が様々な学部から学びに来ていたという。しかし現在は 2 人である。それは大学が位置する地域の状況が大きな理由ではないかと彼らは分析する。ジョグジャカルタの華人は家で中国語を話さず、ジャワ化しており、逆に他民族が仕事を得るために幼少期から中国語教育を熱心にし、台湾や中国への進学者も増えているという。そのため中国語学科に来るのは他地域からの学生である。学科長は、再び中国語センターの活性化を図るよう大学から要請されており、これからプロモーションをどのようにしていくかを模索中である。

2）中国語教育学科の大学生の意識

外国語センターの中国語教室にて、教師と学生二人と授業の前に 20 分ほどグループインタビュー形式で行った。インタビュー項目は、ブンダムリアと同じである。教員によると、授業は、週に 2 回、受講生の授業の空きコマに合わせて設定している。2 人の学生のレベルは大きく異なるが、レベルの高い学生が会話練習でも色々助けてくれて助かっている。授業の内容も、二人の学生の興味関心に合わせ、おしゃべりをするだけの時もあれば、文法の説明、有名な文章を読むなど様々である。

K さん：女子学生。3 年生。ジョクジャカルタ出身ではあるが、大学から遠く離れたところに実家がある。祖父母が中国から移住。祖父母とは中国語で話す。両親とはインドネシア語で話す。

① もっと華語を上手に話したり、読んだり書いたりできるようになりたいと思ったから。

普通の人とは違う宗教を信仰していて…仏教ではあるが、特殊な宗派。その宗派は華人によるものであるが、家族の中では自分だけ。なので、その宗派の集まりでジョクジャカルタやジャカルタなどに行くこともある。その集まりの時にコミュニケーションがうまくできるとよいということもあって、華語がうまく話せるととてもいい。

④私は学部は経済学部で、将来会計の仕事に就きたいと思って勉強をしています。

L 君：男子学生。3 年生。中部ジャワ州出身。両親ともにジャワ人。

①この大学で華語を勉強している理由は、彼女が華人だから。彼女の両親や家族とも仲良くしてもらっていて、華語で彼らと話せるようになりたいと思っている。高校の時にも外国語の授業で中国語のクラスを受けていましたが、まったく上達することはなかった。

③今は二人の学生で、とても効果的に勉強できていると思います。楽しいし。

④私も経済学部に所属していて、将来は普通に企業で働きたいと思っている。中国語を就職に生かすとかは考えていない。

K さんも L 君もブンダムリアの大学生のように、就職のために中国語を勉強しているわけではないことが分かる。K さんは華人であり、祖父母とは中国語で話し、中国語ができない両親とはインドネシア語で話しているため、中国語能力は十分ではなく、宗教関係のネットワークの中で中国語がうまくなりたいという思いが強い。北村（2014: 143）によると、中国人の組織には 4 種類あり、同郷団体、同氏族団体、宗教団体、1966 年に閉鎖される以前の華語学校同窓会があり、その中の宗教組織によって K さんの中国アイデンティティや中国語が必要という意思を生み出していると考えられる。

5. おわりに

以上みてきたように、マレーシアではマレー人を優遇する国民統合政策の中で、華人への抑圧が彼らの対抗を強めて華人大学の創設に至った。しかし、華人大学は国家の教育目的に反目するものではなく、華人による華人のための大学でありながらも国家高等教育目的を遂行し、そして近年では国際化へも対応する大学となった。シンガポールでは、英語優位での国家統合政策をとっているが、各民族言語の保証も行われているため華人コミュニティに抑圧がなく、華人の社会的経済的成功を保証するものでもあるため、華人大学は国立大学における華人教育の統合される結果となった。一方、イン

ドネシアでは 30 年間以上、華人文化・華人教育が禁止されたという抑圧的な社会状況において、華人コミュニティは華語での教育を進めることはできなかった。その間、華人によって設立され、存続できた大学は、宗教的背景を持ち、華語教育を行わない政治的に中立な大学であった。現在に至るまで、華人系大学は多様な特徴を有しつつも教育対象を華人に限定せず、国家の高等教育目的を遂行する大学であることに変わりはない。

その後、2000 年以降に華人文化開放政策が進み、インドネシアでは中国語教育が初等教育段階から高等教育段階まで突如始まることとなった。しかし先に触れた華人系大学で中国語学科を開設した大学はその半数であり、華人アイデンティティの再生といった目的はなく、主には中国関連の企業への就職のため、それに関連する中国語教育者養成のためである。華人系大学以外の国立・私立大学においても中国文学・中国語学科が開設され、現在少なくとも 26 大学以上において取り組まれている。そのカリキュラムの特徴は、中国文学学科では中国の社会文化理解を含めた文学教育、中国語学科では言語習得と教授法習得であり、純粋に外国語文学、外国語習得、外国語教育の学習である。

そして、中国文学・中国語学科に在籍する学生数は約 3000 人に上る。華語ブームで中国語を学ぶプリブミ（土着住民）が増えたとはいえ、在籍者の多くは華人である。インタビューによると、彼らの中国語学習の動機の主なものは就職に有利なスキルだからということであり、華人アイデンティティによると理解できた学生は数名であった。ただし、彼らの両親は華人文化のロストジェネレーションと言われる世代ではあるものの、家庭で中国語を使う人は多く、祖父母から言語や文化の継承を経験している学生もいた。中国語習得や中国語企業への就職に有利な条件を持っているといえるようである。そのほかの動機として、中国ドラマへの興味や彼女が華人だからというものもあった。このように、中国に関連する就職や趣味や人間関係からの中国語学習動機において、華人や華人文化に対する偏見や差別的な見方は見られない。今後の民族融和、インドネシアにおける多様性の中の統一が達成される兆しと期待できる。

ただし、本研究でインタビューした学生は、その中の一部でしかない。今後幅広く華人学生とプリブミ学生の意識調査を実施することで、より正確な状況が理解されると考える。

【附記】本稿は平成 JSPS 科研費 JP18K02430（基盤研究（C）（一般）研究代表者：大塚豊「アジア諸国における華僑・華人による大学運営実態に関する実証的比較研究」）の助成を受けている。

【注】

[1] Badan Pusat Statistic. Badan Pusatto Sutatistic (Indonesia Statistic Center).（http://sp2010.bps.go.id. 最終閲覧日 2020 年 7 月 14 日）

[2] Department of Statistics Malaysia（http://pqi.stats.gov.my. 最終閲覧日 2020 年 7 月 14 日）

[3] Statistics Singapore（https://www.singstat.gov.sg/. 最終閲覧日 2020 年 7 月 14 日）

[4] なお抗議の結果、1982 年に教育部はマレー語教材の華文への翻訳、華文小学校の華語での教科書編集を許可した。

[5] ただし政治的弾圧により、正式な認可は 1968 年であった。

[6] マレーシア、シンガポールでの華人大学の歴史研究では、基本的に華語で教育を行う大学が対象とされてきているが、本稿では、インドネシアにおける「華人系大学」の定義として、創設者が華僑・華人であり、「華人色が強い」「華人学生が多い」とみなされる大学とする。

[7] レス・プブリカ大学は、華人団体国籍協商会（バペルキ）によって 1958 年に設立されたバペルキ大学を前身とする。レス・プブリカ大学の焼き討ちについては、倉沢（2017）が当時の関係者らへのインタビューから、特に華人の中での同化主義者（プラカナン）による統合主義者の排斥として詳しく描いている。9・30 事件と一連の「共産主義者撲滅」の時期における大学の苦難については、Wahid (2018) に詳しい。1965 年 10 月 10 日に、レス・プブリカ大学以外にもラクヤット・インドネシア大学、ラクヤット大学、プムリンタ・コタプラジャ・スラカルタ大学の 4 大学と 9 つのアカデミーと 1 つのインスティトゥートが閉鎖され、その三日後にもクスニアン・ラクヤット大学、ドクター・チプト・マングンクスモ大学と 4 つのアカデミーと 1 つのインスティトゥートが共産主義との関りやシ

ンクタンクになっているという疑いで閉校された。取り締まりの対象は華人系大学や華人だけに限らなかった。

[8] Trisakti University Brief History. (http://en.trisakti.ac.id/tentang-trisakti/sejarah-singkat. 最終閲覧日 2020 年 12 月 24 日）

[9] UIS UNESCO, Enrolment by level of education. （http://data.uis.unesco.org/. 最終閲覧日 2020 年 7 月 14 日）

[10] Statistik Pendidikan Tnggi, *Higher Education Statistical Year Book 2018*, p.13. 単科大学やポリテクニクなどすべての高等教育機関数は 4670 である。

[11] Tan, Herman (2019, 15 July). Inilah 8 universitas Jurusan Sastra Mandarin (S1) Terbaik di Indonesia [The best 8 universities in Indonesia of Faculty of Chinese literature]. *Tionghoa.INFO*. （https://www.tionghoa.info/inilah-8-universitas-jurusan-sastra-mandarin-s1-terbaik-di-indonesia. 最終閲覧日 2020 年 7 月 1 日）

[12] 2019 年 12 月に行ったブンダ・ムリア大学での中国語教育学科教員らへのインタビューより。

[13] 2018 年 2 月に中矢が東ジャワ州の華人系大学、2019 年 11 月に中矢と劉がジャカルタの華人系大学、2020 年 2 月に中矢がジョグジャカルタの華人系大学で実施した調査による。一部はアジア教育学会にて発表（中矢礼美、劉国彬「インドネシアにおける華人系大学の特徴」第 14 回アジア教育学会大会（名古屋市立大学、2019 年 11 月 2 日）。

[14] Pusat Pengembangan dan Pemberdayaan Pendidik dan Tenaga Kependidikan (PPPPTK) Bahasa（外国語教育・教員養成センター）を指していると考える。（http://p4tkbahasa.kemdikbud.go.id/prakata/. 最終閲覧日 2020 年 12 月 26 日）

[15] Asosiasi Program Studi Mandarin Indonesia HP. （https://www.asosiasiprodimandarinindonesia.org/. 最終閲覧日 2020 年 12 月 15 日）。2012 年からナショナル大学の中国語学科教授が他の大学の中国語教員と北京で研修を受けたことをきっかけにインドネシア国内大学の中国語学科の横のネットワークを作りはじめ、SNS ネットワークから 14 大学まで広がり、立ち上げに至った。年に一度の中国語教育研究大会などを開催している。

[16] ただし、インドネシア共和国研究技術高等教育省のリストには掲載されていないため、無認可の可能性がある。2004 年にマレーシアの華人から津波の後の支援として貧困家庭の学生への進学機会の保障を行う外国語学院設立資金提供が行われたものである。

[17] ( )内は単位数を示す。

[18] ジャカルタにあるブンダ・ムリア大学でのインタビュー調査。2019 年 9 月 17 日（中矢によるインドネシア語でのインタビュー、A 君から F さんまで）および 19 日（劉による中国語でのインタビュー、G 君から J さんまで）。

[19] 2020 年 2 月 28 日 、ジョグジャカルタ特別州にあるアトマジャヤ大学にて、中矢によるインドネシア語でのインタビューより。

[20] 2019 年 2 月 28 日、アトマジャヤ大学創設者の一人である A.J. Liem Sioe Siet 氏へのインタビューより。

【参考文献】

青木葉子（2006）「インドネシア華僑・華人研究史――スハルト時代から改革の時代への転換」『東南アジア研究』43 (4): 397-418.

大塚豊（2015）「インドネシア地方都市における漢語教育」『大学教育論叢』創刊号、49-65.

大塚豊（2016）「アジア諸国における漢語教育と華僑・華人の民族アイデンティティ―カンボジア、タイ、インドネシア、ベトナム調査から―」『大学教育論叢』2、81–99.

北村由美（2014）『インドネシア 創られゆく華人文化』明石出版.

倉沢愛子（2017）『九・三〇事件とインドネシアの華僑・華人社会 レス・ププリカ大学襲撃事件から見えること』アジア・言語文化研究、93、25-64.

小木裕文（1982）「シンガポール華人社会と華語教育」中京大学教養論叢、23 (3)、121-145.

杉村美紀（2000）『マレーシアの教育政策 とマイノリティ- 国民統合のなかの華人学校』東京大学出版会.

杉村美紀（2015）「国際化に伴うマレーシアの高等教育政策と華文高等教育の展開」『立命館国際研究』

27 (4)、875-891.
杉本均（1999）「マレーシア華人の民族教育動態と国際関係ー ジョホール州華語教育の動向を中心にー」『京都大学大学院教育学研究科紀』45、17-44.
鈴木康郎（1996）「戦後タイに見られる華人系学校の特質:国民統合政策との関連を中心として」『比較教育学研究』22、113-125.
竹熊尚夫（1998）『マレーシアの民族教育制度研究』九州大学出版会.
田村慶子（2012）「シンガポールの華人社会と南洋大学の創設」『マレーシア研究』１、37-58.
中矢礼美（2002）「インドネシアの高等教育カリキュラムに関する研究」『中国四国教育学会　教育学研究紀要』48 (1) 、410-415.
宮原曉（2013）「「華僑」「華人」と東アジアの近代」大阪大学中国文化フォーラム『OUFC ブックレット (1) 』、85-108.
王焕芝・洪明（2011）「馬来西亜華文教育政策的演変及未来趨勢」『福建師範大学学報』No. 4.
呉端陽（2000）『試析東南亜華文、華人高等教育的歴史演進及基本経験』『海外華文教育』第 3 期.
呉明罡（2010）『近代南洋華僑教育研究』（吉林大学博士学位論文）.
顧明遠（主編）（1992）『教育大辞典第 4 巻』上海教育出版社.
郭健（2011）「馬来西亜和新加坡華文教育発展歴程比較研究」（福建師範大学・修士論文）.
梁英明（2013）「従中華学堂到三語学校—論印度尼西亜現代華文学校的発展与演変」『華僑華人歴史研究』第 2 期.
Afdilla, D. L., Irwati, R.P., Anggraeni (2018) Analisis Isi Silabus, RPP, dan Bahan Ajar Mata Pelajaran Bahasa Mandarin SMP Nusa Putera, AMP Kebon Dalem, dan SMP karangturi Semarang, *Journal of Chinese Learning and Teaching*, 1, 7-13.
Budianto.P.& Laurencia.N. (2014) Keterkaitan New HSK dan Kurikulum Bahasa Mandarin di Perguruan Tinggi, *Jurnal Lingua Cultura*, 8 (1), 16-21.
Coppel, A.C. (1994) *Tionghoa Indonesia Dalam Krisi*s, Sinar Harapan.
Domos, E., (2018) Motivasi Siswa SMA Terhadap Pelajarn Bahasa Mandarin, *Jurnal Inovasi dan Bisnis*, 6, 195-204.
Mintowati, M. (2017) Pembelajaran Bahansa Mandarin di Sekolah: Pendekatan dan Metode Altanatif, *Jurnal Cakwawalamndarin*, 1 (1). 1-10.
Utandi, S., Limuria, R. (2019) Evaluasi Penggunaan Materi Ajar Bahasa Mandarin tingkat SMA di Kota Bandung, *Lingua Didaktika: Jurnal Bahasa dan Pembelajaran Bahasa*, 13 (2), 165-180.
Wahid （2018） Campus on Fire: Indonesian Universities During the Political Turmoil of 1950s -1960s, Archipel, 28.（https://journals.openedition.org/archipel/612. 最終閲覧日 12 月 18 日）